

2023 年 5 月
ニチバン株式会社

2023 年 3 月期 決算説明会 質疑応答の要旨

この質疑応答集は、2023 年 5 月 29 日（月）に開催した決算説明会にてご出席の皆様からいただいたご質問を記録したものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 2023 年 3 月期 研究開発費の状況、オープンイノベーションの活動を含めた今後の取り組みについて教えてください。

A1. 2023 年 3 月期 ニチバングループ連結の研究開発活動の金額は 11.1 億円でした。2024 年 3 月期では過去 2 回の社外アクセラレータープログラムの経験をもとに、領域を絞り込み、具体的な成果に繋げて参ります。

Q2. 2023 年度 3 月期 ROE（自己資本利益率）6.0%に対して昨今 8.0%~9.0%に高めるという方向性の中、ニチバンの現状の財務体質と ROE に対する考え方や手応え、合わせて PBR が 1 倍に届いていない現状に対する考え方をお聞かせください。

A2. 先ずは当期純利益を安定的に 30 億円以上は出すような経営にしていきたい。ROE 8.0%は、インバウンドが前回通りに回復し、原材料の高騰に対してどこまで価格改定でカバーできるかで決まる。適正な価格設定や利益を得られる売価設定を見直したいと考えております。株価については様々な要因がありますが、上記の安定的な利益に基づく ROE の向上が株価に繋がると考えております。

Q3. 2030 ビジョンで掲げている海外売上比率 30%に対して、2023 年 3 月期は 10%を越えてきているので 30%実現に向けた考えや手応えを教えてください。

A3. 海外に関しては、タイとドイツの販社設立後、本社管轄の東アジア含め業績を伸ばしています。BtoB 製品の場合、現地のお客様とのコミュニケーションが重要であり、ようやく現地仕様の新製品を開発し現地の市場に合わせた投入が出来てきました。また、欧州市場では FSC 認証の取得を拡大の契機として参ります。日本から全て

輸出することは難しい面もあり、物流や生産などを担うようなパートナー探索も今後の課題となります。

Q4. 2024年3月期の設備投資に関して、粘着剤塗工設備新設とありますが、事業所・新設時期・生産稼働時期を具体的に教えてください。

A4. テープ安城工場への設備投資であり、溶剤を使わない方針のもと、生産移管など様々な対応を進める中、装置を新設、生産稼働時期は下期以降と考えています。

Q5. 2024年3月期計画で「ロイヒつぼ膏TM」の回復をどう考えていますか。足元の状況と中国人旅行客も回復に向かえば、販売トレンドは上向くでしょうか。

A5. 「ロイヒつぼ膏TM」の回復に関し、2024年3月期も継続するという想定です。中国人観光客の増加がストレートに伸びるとは考えていません。「ロイヒつぼ膏TM」の主要なお客様は韓国の方であるとコロナ前より分析している為、中国の方への製品アピールは今期の非常に重要な戦術になると考えています。

Q6. テープの価格転嫁に関して、2024年3月期は更に価格改定される計画ですが、値上げの浸透時期やコスト上昇のカバー率に関してどのような前提でしょうか。

A6. 昨年度の価格改定実施の結果、2022年度としては50%程度の効果と考えています。更にエネルギー価格の高止まり、価格改定は時期ずれがあり、実際は2024年3月期に実施している製品もあるので、それらを含めて確実に実施して参ります。ヘルスケアに関しては昨年度は実施していないので今年度の実施を考えています。

Q7. 「ケアリーヴTM」2023年3月期は2%と伸び率が鈍っています。競合の状況について変化はあるでしょうか。2024年3月期はどの程度伸びるのでしょうか。

A7. 先ず昨年度の伸び率2%は、従来の期待値からは低いものでした。競合他社の積極的な販促等もあり、特に「ケアリーヴTM治す力TM」は期待値に届きませんでしたので、今年度は「ケアリーヴTM治す力TM」について使用シーンなどの啓蒙を進めて参ります。

Q8. 「ロイヒつぼ膏[®]」の販売回復や価格改定が浸透した場合、将来的に2017年3月期・2018年3月期の営業利益率の水準である9.0~10.0%に回復することは可能でしょうか。

A8. メディカル事業において「ロイヒつぼ膏[®]」のインバウンド需要が当時と同程度に回復する前提とし、テープ事業においては、2022年度に実施した価格改定をベースに2023年度に予定している追加価格改定を実施しても、それだけでは2017年・2018年3月期レベルの利益水準には足りないのではないかと想定しています。当時の利益水準を達成するためには、やはり弊社が目指しているグローバル30%、イノベーション30%に向けた成果の実現が重要と考えています。

以上